26. ^{67}Ga の abscess への集積——腫瘍との比較——……新田　一夫他… 892
27. 全身オートラジオグラフィーによる Abscess 惹起ラットの ^{67}Ga 体内分布 ……真田　茂他… 892
28. Early ^{67}Ga scintigraphy (5時間像) の検討　第2報　RI 異常集積例の検討 ……東　光太郎他… 893
29. ^{67}Ga 集積を示した心筋炎の1症例……横山　邦彦他… 893
30. 非天然アミノ酸 1-Aminocyclopentan-1-carboxylic acid の腫瘍親和性について
——^{14}C-標識化合物を用いて—— ……柴　和弘他… 893

一　般　演　題

1. ビーズ法による T_3-RIA の基礎的検討

大口　学　長東　秀一　立野　育郎
(国立金沢病院・放)

ダイナボット社製 T_3-RIA キットの基礎的検討を行った．インキュベーション時間は，指示書通り室温2時間で良好な標準曲線が得られたが室温1時間 shaking 法でも，ほぼ同様なカーブを呈する標準曲線が得られた．アッセイ内再現性は平均 C. V. 値4.5%，アッセイ間再現性は平均 C. V. 値9.9% とほぼ満足できる結果が得られた．回収率も8回の平均値が95.9% と良好な結果を示した．46検体で本法と，PEG 法による T_3-RIA II との相関をみたところ相関係数 0.957, $y=0.953x-0.073$ であった．本キットに用いる血清量は 50 μl ときわめて微量で測定可能なこと，PEG 法のような B・F 分離に遠心操作が不要で簡便であることなどが特徴としてあげられ，さらに基礎的検討の結果も再現性，精度に優れており，日常臨床上，迅速にかつ簡便に血中 T_3 濃度測定が可能であると思われた．

2. CEA RIA kit (Daiichi) の基礎的検討

金森　勇雄　矢橋　俊丈　松尾　定雄
柳瀬みき子　樋口ちづ子　市川　秀男
木村　得次　中野　哲 (大垣市民病院・放)
(特殊放射線センター)
佐々木常雄　石口　恒男　(名大・放)

今回われわれは CEA RIA kit (Daiichi) について測定上に関する基礎的検討を行い次のごとく結論を得た．

1) 標準曲線の再現性の C.V. は 3.7～9.8% の間にあり非常に良好であった．

2) 再現性の C.V. は同時再現性で 5.3～7.1%，日差再現性は 4.2～10.5% の間にあり，ともに良好な結果が得られた．

3) 回収率は 83.4～113.3% の間，平均値は 93.3% でありほぼ満足すべき値であった．

4) 希釈試験; 200 ng/ml 以上では双曲線を示すが，200 ng/ml 未満ではほぼ満足すべき直線性が得られた．

5) 本法と他社固相法 RIA キットとの相関係数は $r=0.884$ ($p<0.001$, $n=239$) であり，推計学的に有意な正の相関が認められた．

6) 正常域 (基礎値) は 2.40±1.9 ng/ml (M. V.±2 S. D.) であった．また，良・悪性疾患の陽性率は良性疾患で48例中13例 (27.1%)，悪性疾患で 155 例中78例 (50.3%) であった．

以上のごとく，本法の再現性は優れており，他のRIA キットと同様に臨床面に果たす役割は大きいと考える．

3. 悪性腫瘍における TPA 測定の有用性——CEA との比較——

真坂美智子　吉見　輝也　(浜松医大・二内)
金子　昌生　鈴木　島吉　清水　哲平
(同・放)

癌胎児性抗原として α-fetoprotein や CEA の存在は良く知られており，腫瘍マーカーとしての臨床的評価もほぼ確立されている．CEA と同様に細胞増殖時に増加するペプチド，Tissue polypeptide antigen (TPA) の存在は 1960 年代より知られていたが，その実体は不明の点が多かった．最近 TAP 測定用 Radioimmunoassay kit が開発され，入手可能となったので，その臨床的有用性について検索した．

測定方法は，遅延添加法を導入した二抗体法である．

測定対象は，健常成人58例，妊婦40例，肝疾患 (肝炎，肝硬変症) 46例，各種悪性腫瘍64例とした．

正常人の測定値は 27～109 U/l の間に分布し $\bar{x}\pm1$ SD

Presented by Medical*Online